

栗田工業株式会社

2016年3月期決算説明会

(証券コード: 6370)

I 2016年3月期実績

II 2017年3月期計画

III 経営の方向性

参考資料

I. 2016年3月期実績

1. 業績ハイライト
2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率
3. 水処理薬品事業
4. 水処理装置事業（電子産業向け）
5. 水処理装置事業（一般産業向け）
6. 財政状態

1. 業績ハイライト

(億円)

	2015/3期	2016/3期	対前期比	修正計画	期初計画
受注高	1,813	2,213	+ 22.1%	2,150	2,170
売上高	1,894	2,144	+ 13.2%	2,140	2,160
営業利益	194	198	+ 2.0%	195	195
経常利益	189	204	+ 7.9%	200	200
親会社株主に帰属する 当期純利益	104	126	+ 20.5%	123	123

- KEAGの新規連結と水処理装置の受注増により受注高が増加。
- KEAGの新規連結により売上高が増加。
- KEAGのPPAや、退職給付費用の増加を原価率の改善により吸収し、営業利益は増益。
- 買収関連費用が大きく減少し営業外収支が改善。

2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率

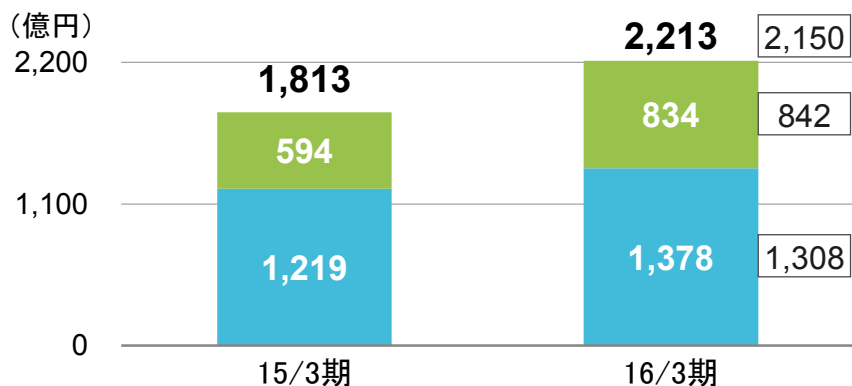
■ ● 水処理薬品事業

■ ● 水処理装置事業

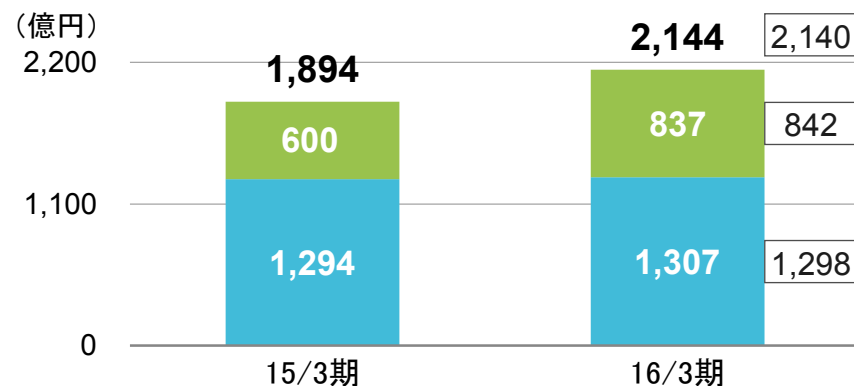
● 全社

* □ 内は修正計画

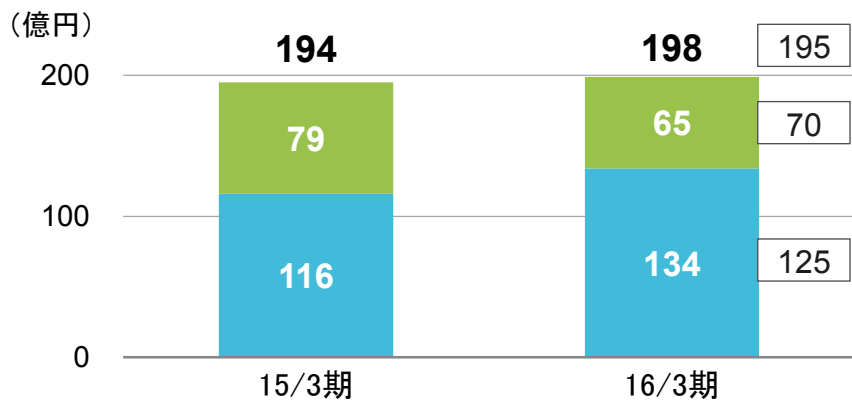
受注高



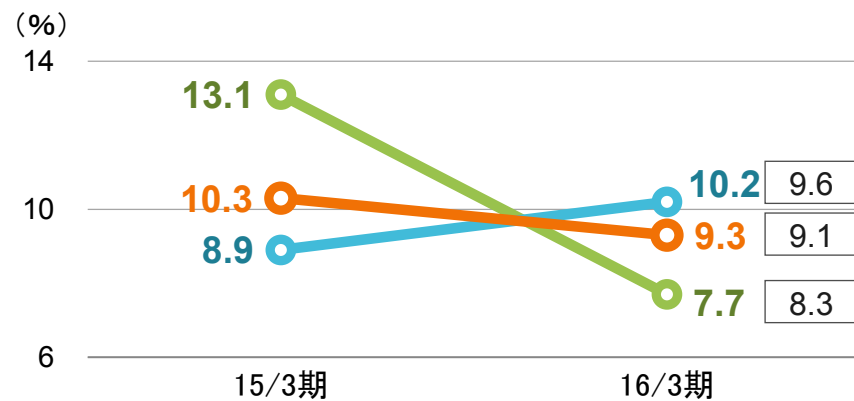
売上高



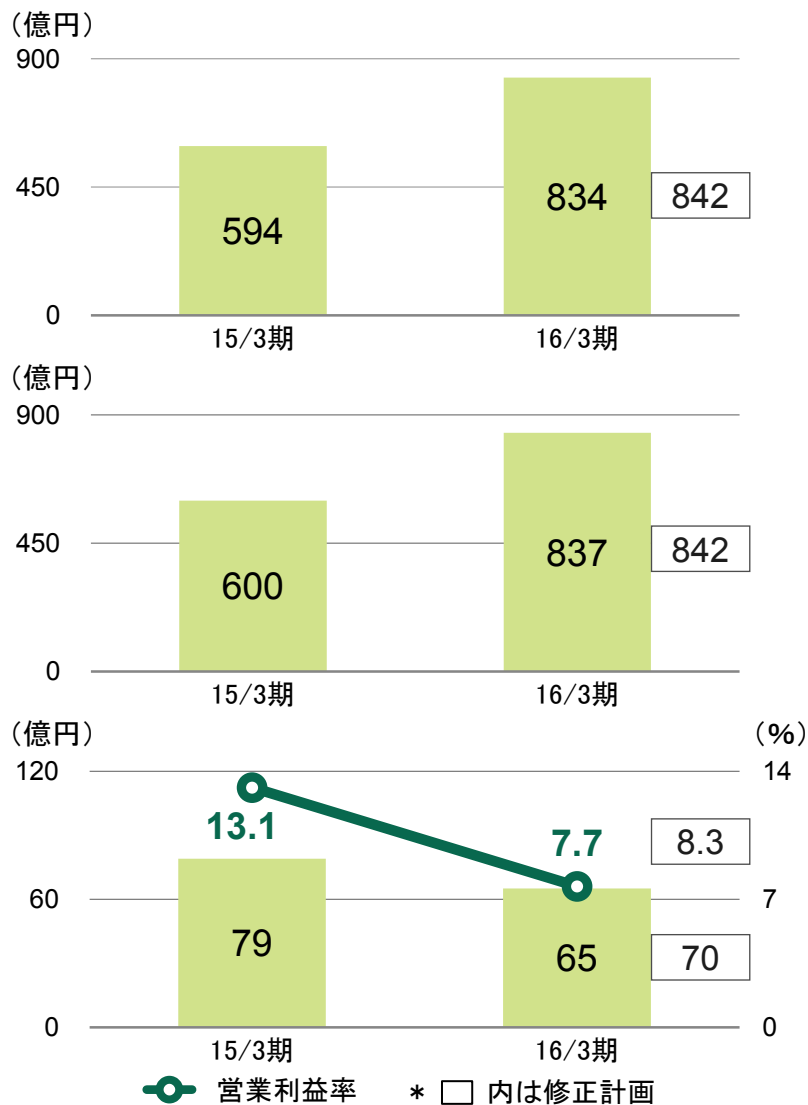
営業利益



営業利益率



3. 水処理薬品事業



受注高

- KEAGの新規連結により海外が大幅に伸長。
- 海外は中国や東南アジアでも伸長。
- 国内では、プロセス向けは増加、冷却水向けは微増、ボイラ向けはやや減少。

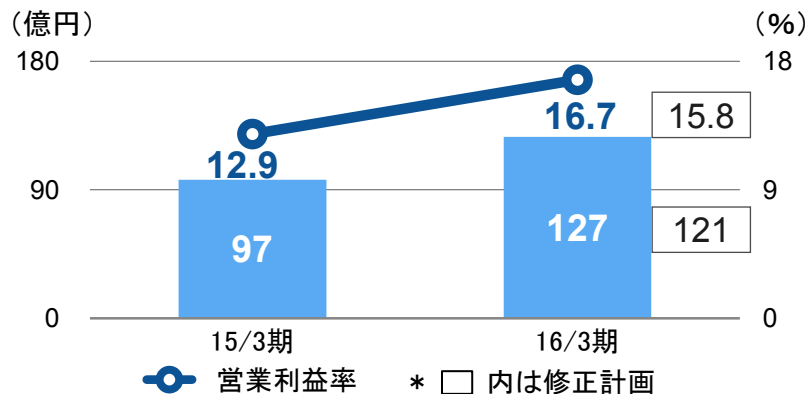
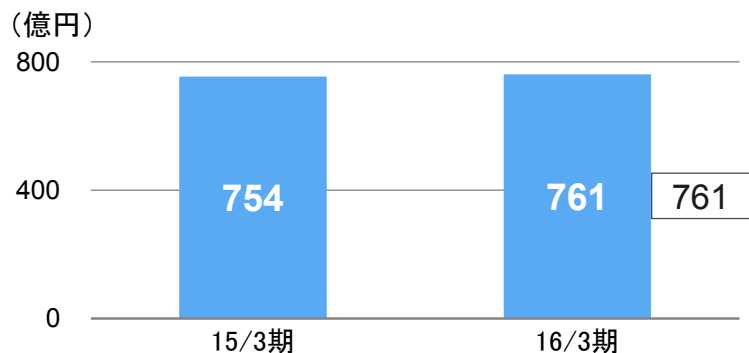
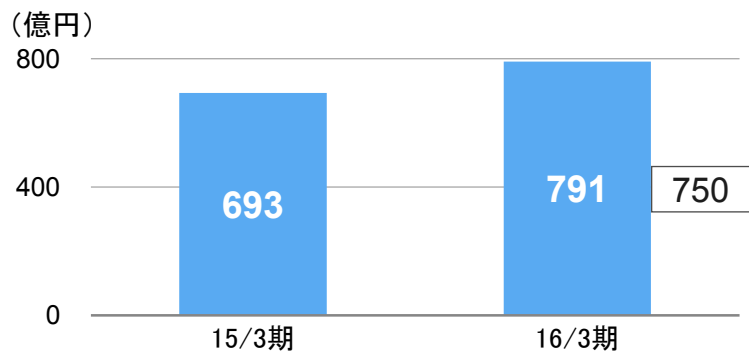
売上高

- 同上

営業利益

- KEAGの新規連結に伴うPPAやのれん等の償却の影響により減益。

4. 水処理装置事業（電子産業向け）



受注高

- 中国・韓国・台湾での液晶・半導体向け大型案件獲得により増加。
- 国内外メンテナンスが堅調に増加。
- 超純水供給事業は微減。

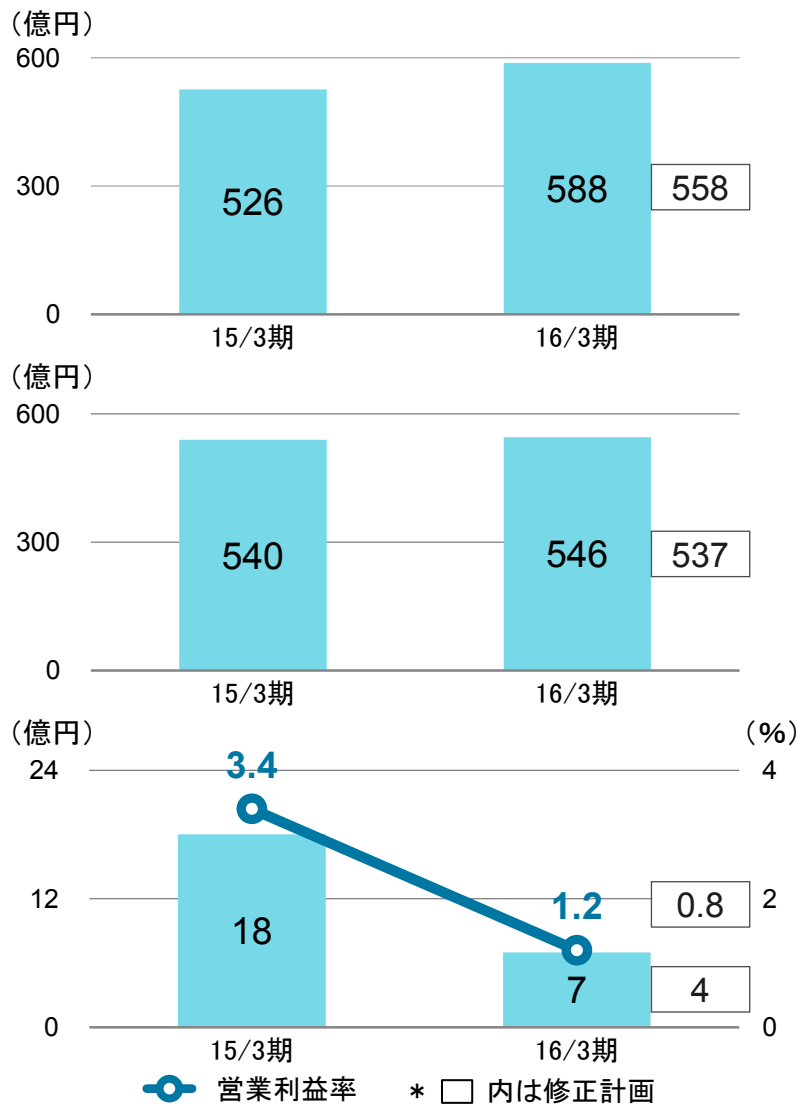
売上高

- 国内ではハード・メンテナンスともに増加。
- 海外ハードは売上計上一巡により減収。
- 海外メンテナンスは堅調。

営業利益

- 海外での不採算案件が縮小。
- 原価率の改善が販管費の増加を吸収。

5. 水処理装置事業（一般産業向け）



受注高

- 乾式メタン発酵設備を受注。
- 電力向けや食品業界向けの受注が増加。

売上高

- 一般産業向けハードが大幅な減収。
- 電力向けハード、土壌浄化、メンテナンスは増収。

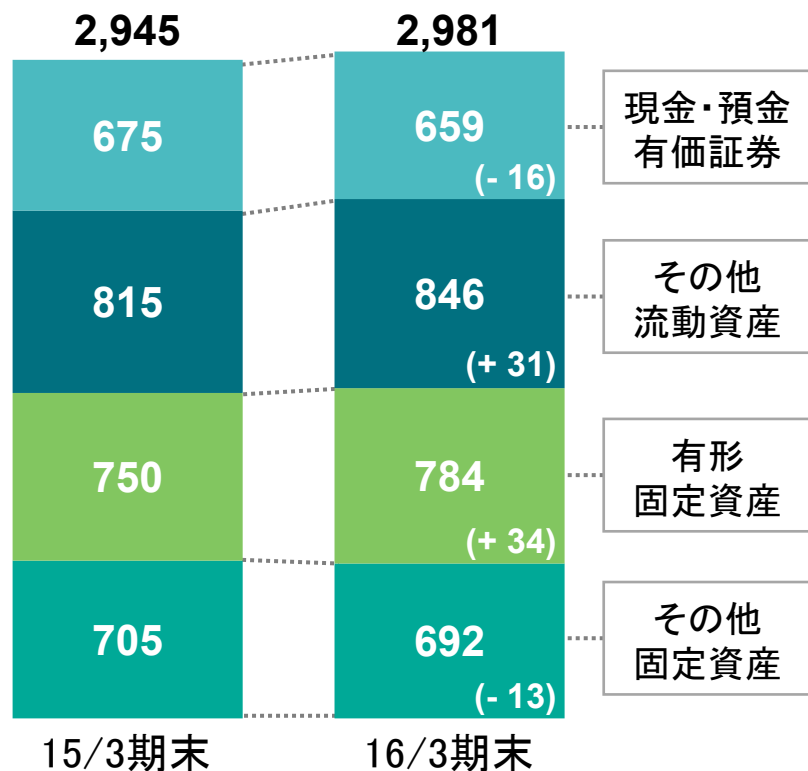
営業利益

- 一般産業向けハード減収により固定費率が上昇。
- 販管費が増加。

6. 財政状態

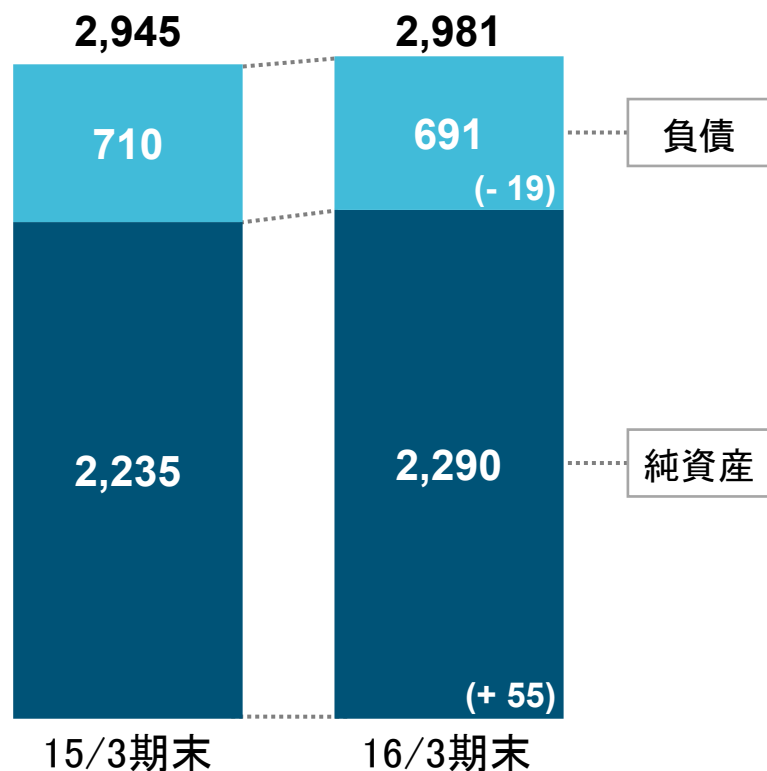
資産

(億円)



負債・純資産

(億円)



■ 超純水供給事業用設備の増加により有形固定資産が増加。

Ⅱ. 2017年3月期計画

1. 前提条件
2. 概要
3. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率
4. 水処理薬品事業
5. 水処理装置事業（電子産業向け）
6. 水処理装置事業（一般産業向け）
7. 超純水供給事業の売上高の実績と見通し
8. サービス事業売上高内訳
9. 海外事業（地域別・事業別売上高）
10. 設備投資・減価償却費・研究開発費
11. 配当方針

1. 前提条件



水処理薬品事業

- 国内製造業の生産活動は横ばい圏。
- 国内市場では価格低下圧力が強まる。
- 欧州では需要の回復が鈍く、アジアの成長も鈍化。



水処理装置事業

- 国内電子産業の稼働率は低下。
- 国内では大型投資はないものの内需産業の堅調な投資とコンビナートの更新需要に期待。
- 海外では中国・韓国・台湾の半導体投資に期待。

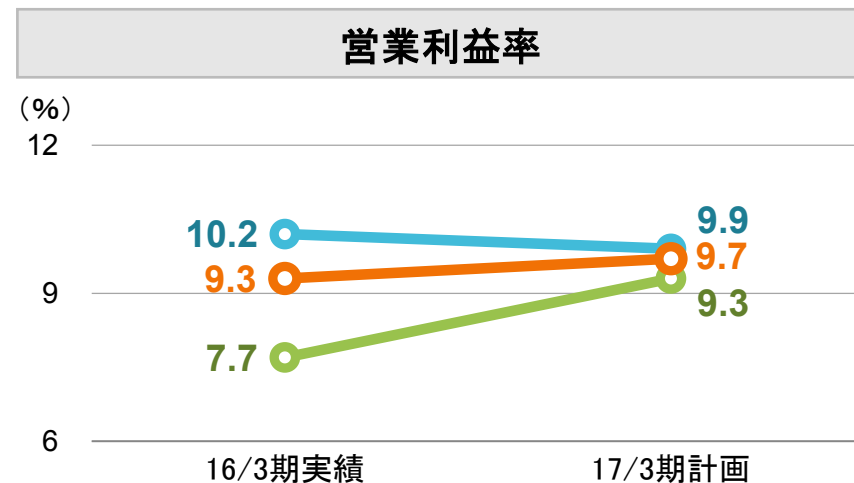
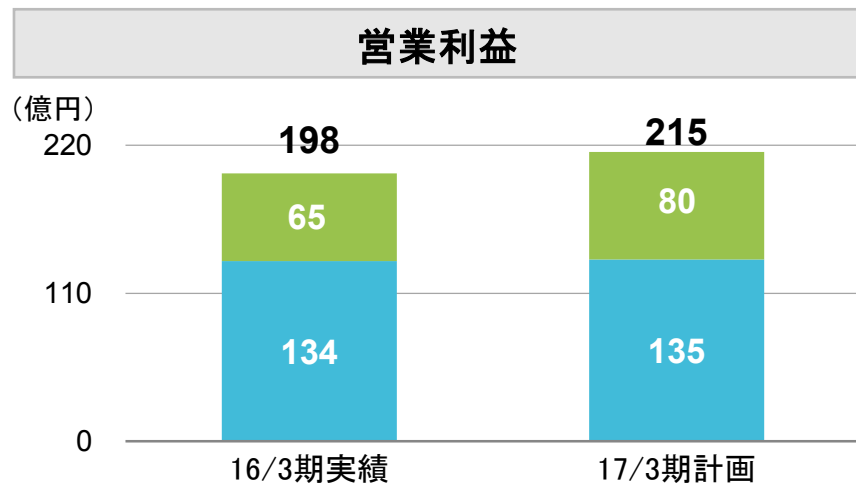
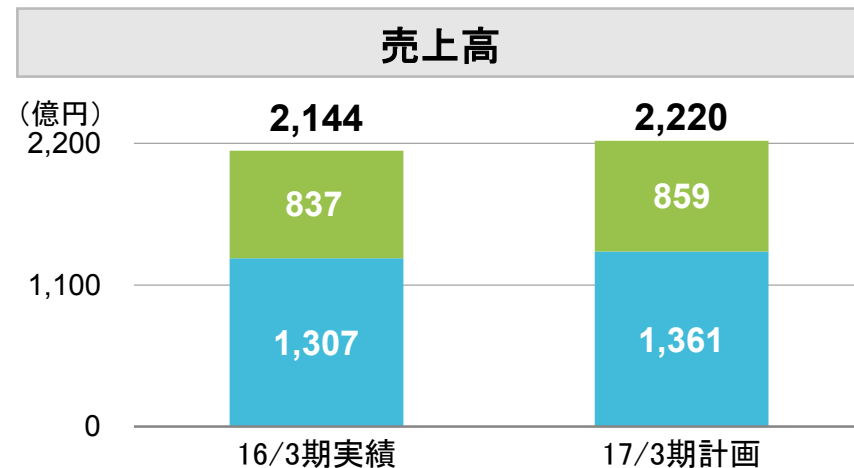
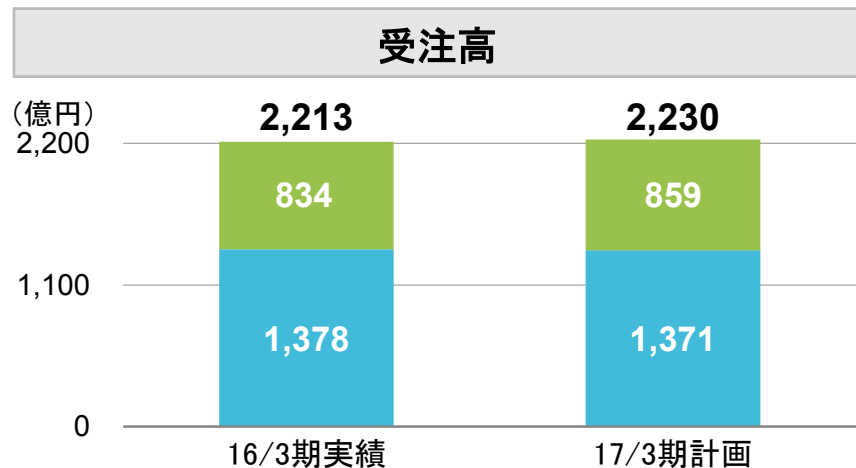
2. 概要

(単位:億円)

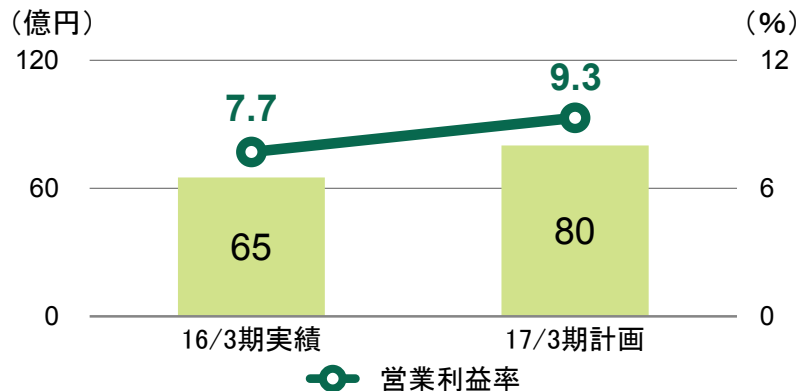
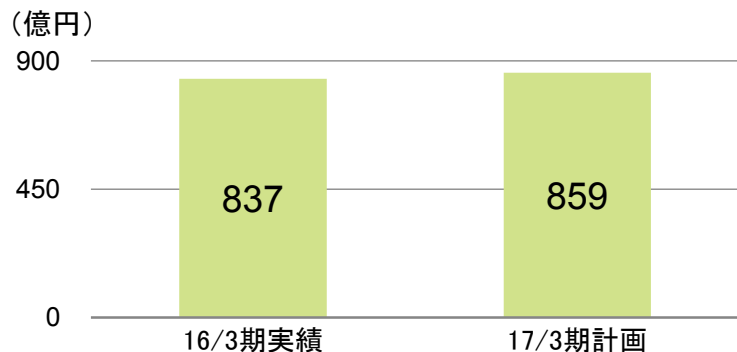
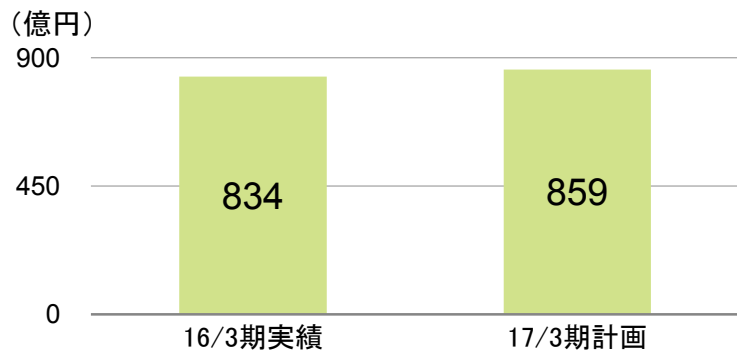
	2016/3期 実績	2017/3期 計画	前期比
受注高	2,213	2,230	+ 0.8%
売上高	2,144	2,220	+ 3.6%
営業利益	198	215	+ 8.4%
経常利益	204	220	+ 7.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	126	140	+ 11.3%

- 受注高は、水処理薬品セグメントで増加を見込む。
- 販管費が増加するものの、増収効果により営業利益は増益見込み。
- 税負担率は低下を見込む。

3. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率



4. 水処理薬品事業



受注高

- 国内は提案力の強化によりシェア拡大を図る。
- 海外ではKEAGの伸長を見込む。
- KEAG以外の海外は現地通貨ベースの伸びを円高が相殺。

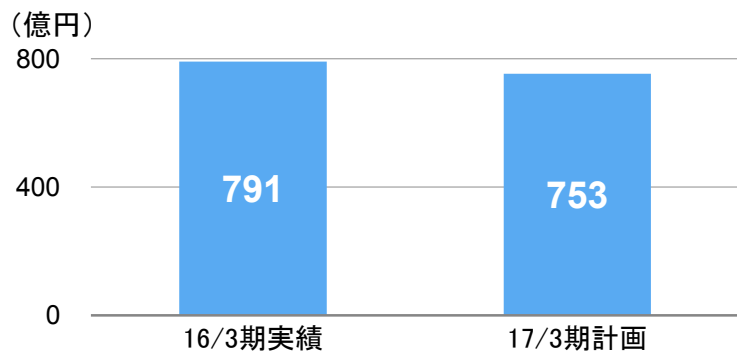
売上高

- 同上。

営業利益

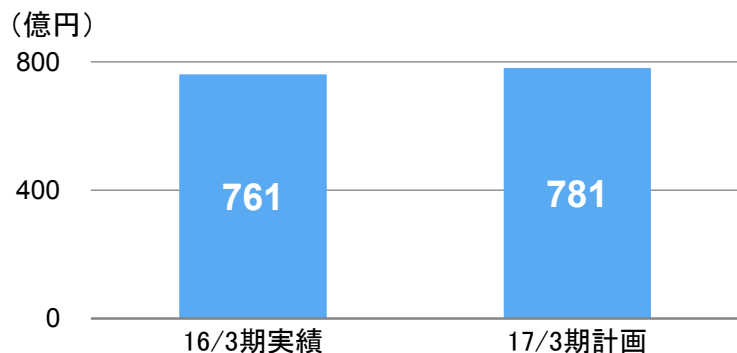
- KEAGの損益は一時的な費用が発生しないことにより改善を見込む。
- KEAG以外も国内の増収と原価率改善で増益を見込む。

5. 水処理装置事業（電子産業向け）



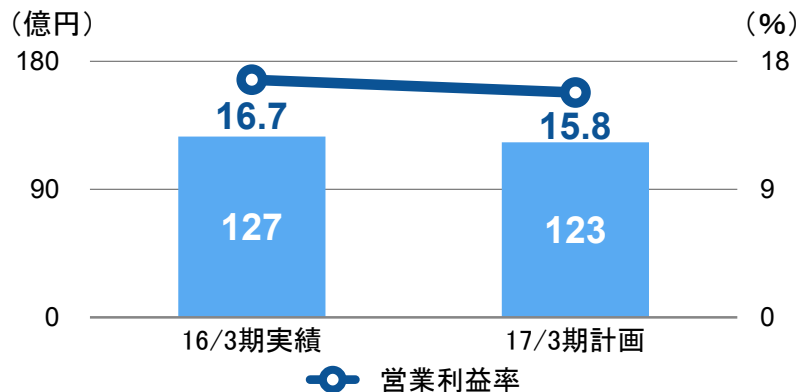
受注高

- ハードが国内外で減少を見込む。
- 国内メンテナンスは顧客操業度低下により減少を見込む。
- 海外メンテナンスは増加継続の見込み。



売上高

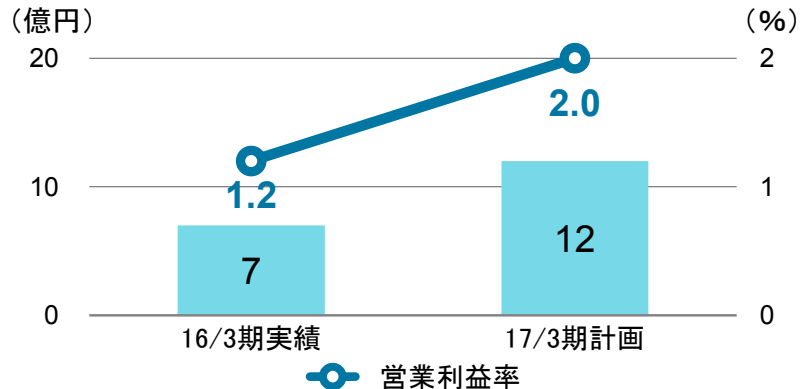
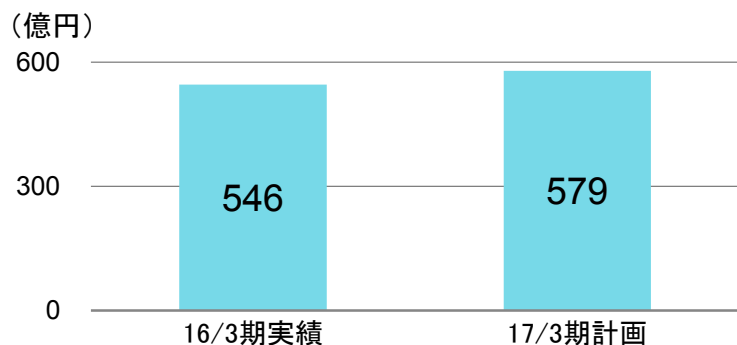
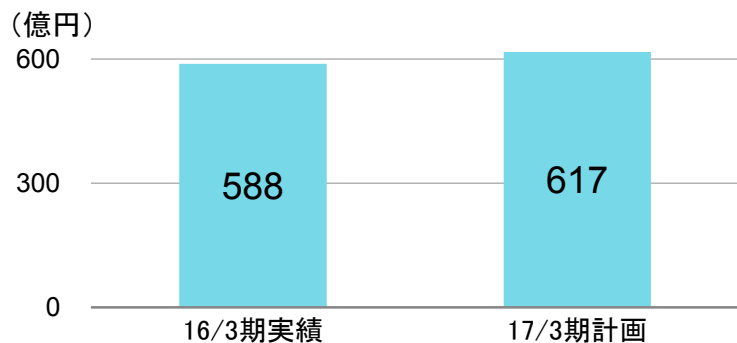
- 海外ハードが前期の受注を反映し増収の見込み。
- 国内メンテナンス減と海外メンテナンス増を見込む。
- 超純水供給事業は微増。



営業利益

- 超純水供給事業のメンテナンス・コスト増加による原価率の悪化を見込む。

6. 水処理装置事業（一般産業向け）



受注高

- 電力向けで電力自由化による需要顕在化に期待。
- 一般産業向けハードは国内更新投資に期待。
- 一般産業向けメンテナンスは提案活動強化により増加を見込む。

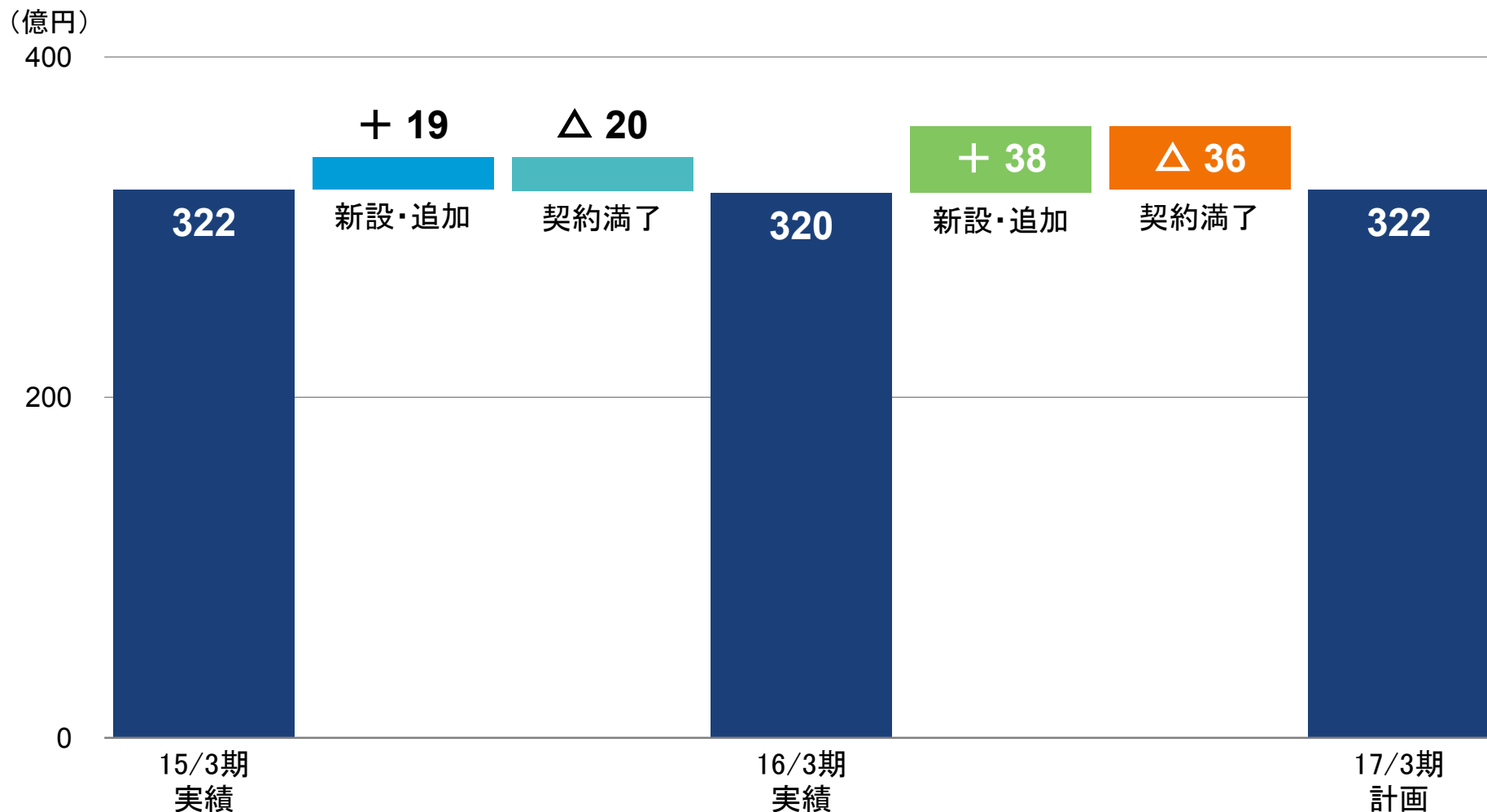
売上高

- 一般産業向けハードが工事進捗により増収の見込み。
- 一般産業向けメンテナンスも受注増加により増収の見込み。

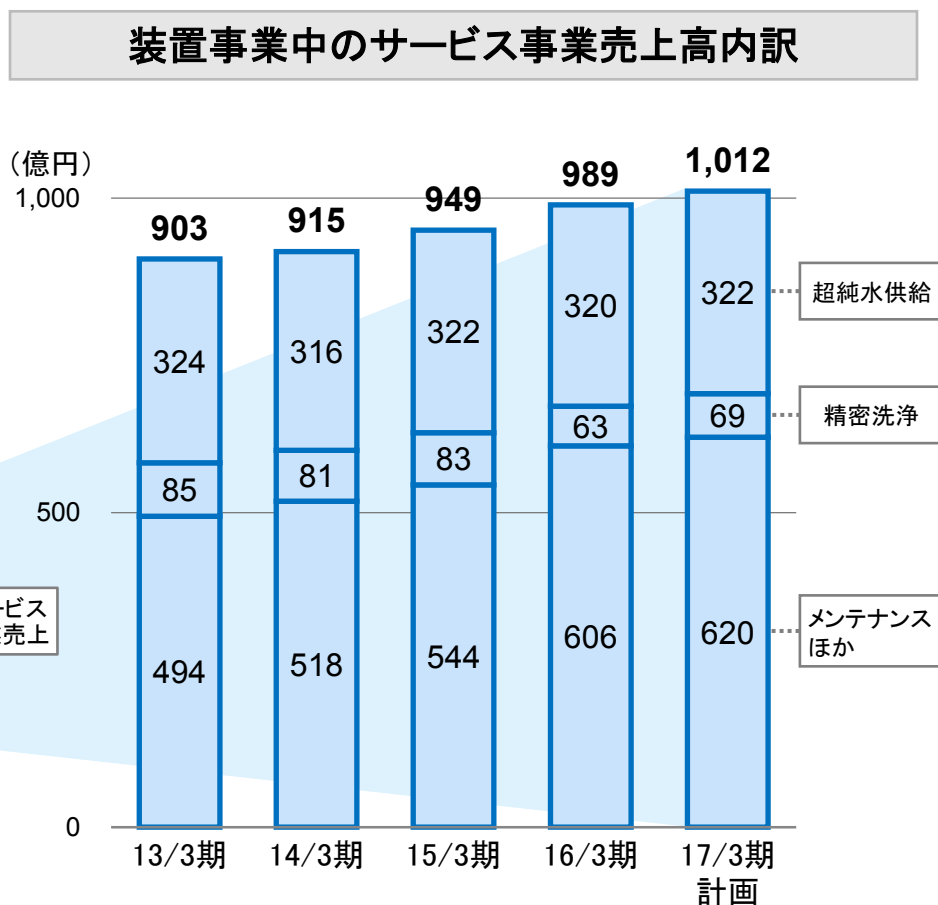
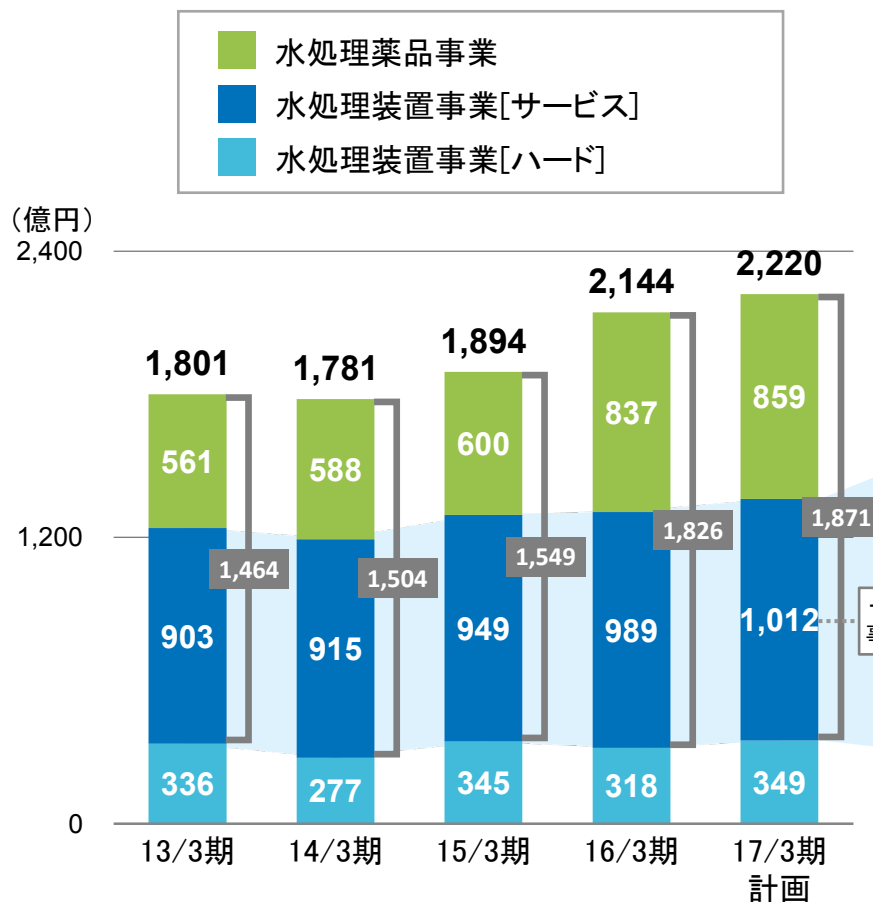
営業利益

- 一般産業向けハードの増収効果を見込む。
- 販管費の増加を見込む。

7. 超純水供給事業の売上高の実績と見通し



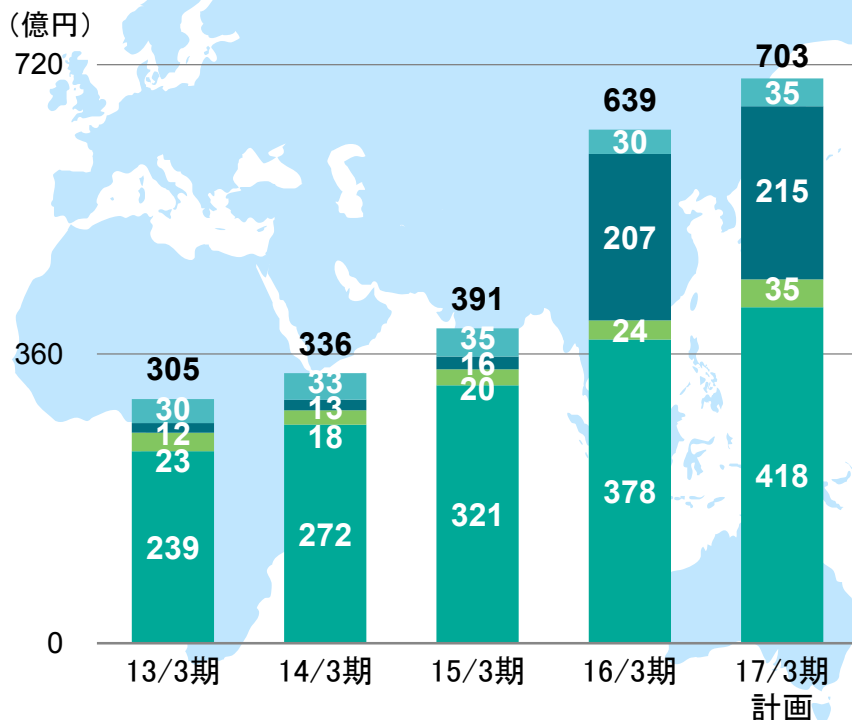
8. サービス事業売上高内訳



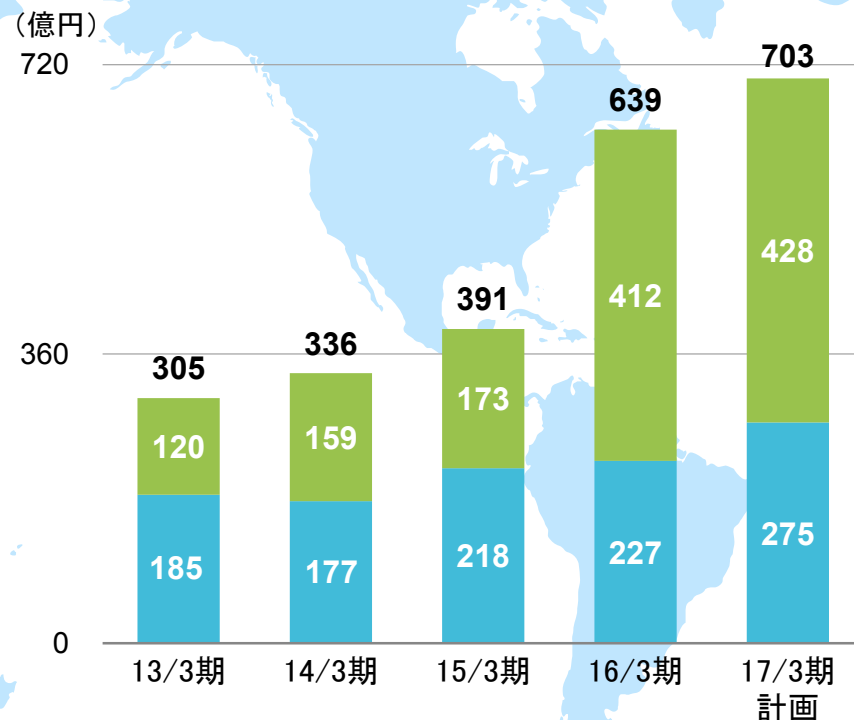
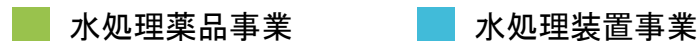
- 16/3期は国内外メンテナンスと土壌浄化が増収、精密洗浄事業が減収。
- 17/3期は国内外メンテナンスは堅調、精密洗浄が増収、土壌浄化は横ばいの見込み。

9. 海外事業（地域別・事業別売上高）

海外地域別売上高



海外事業別売上高

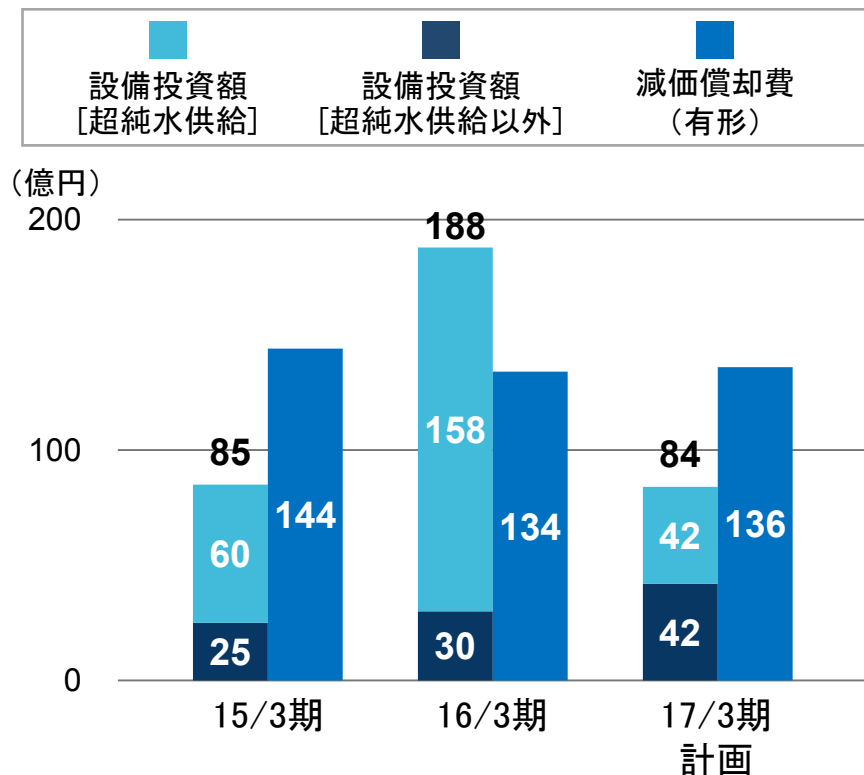


- 16/3期は水処理薬品事業のKEAGの新規連結と中国・東南アジアでの伸びにより増収。
- 17/3期はKEAG1カ月分の増加と、海外電子産業向け装置の伸びによる増収を見込む。

* 16/3期より地域区分を変更しました。このため、15/3期も遡って変更しています。

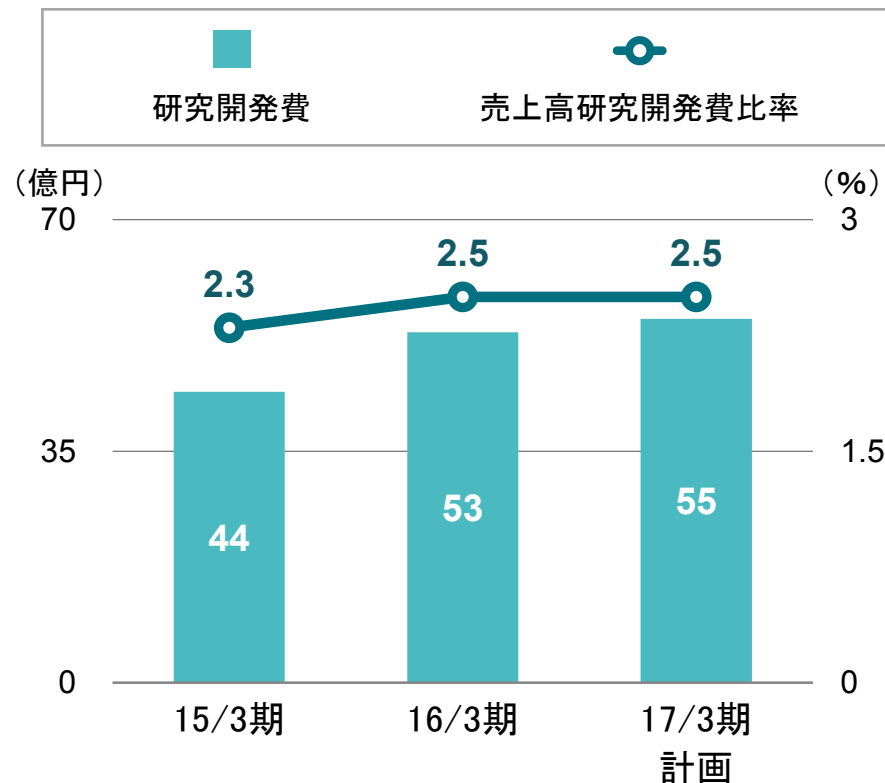
10. 設備投資・減価償却費・研究開発費

設備投資・減価償却費



- 16/3期は超純水供給事業の設備投資が増加。
- 17/3期は超純水供給事業の設備投資が減少の見込み。

研究開発費

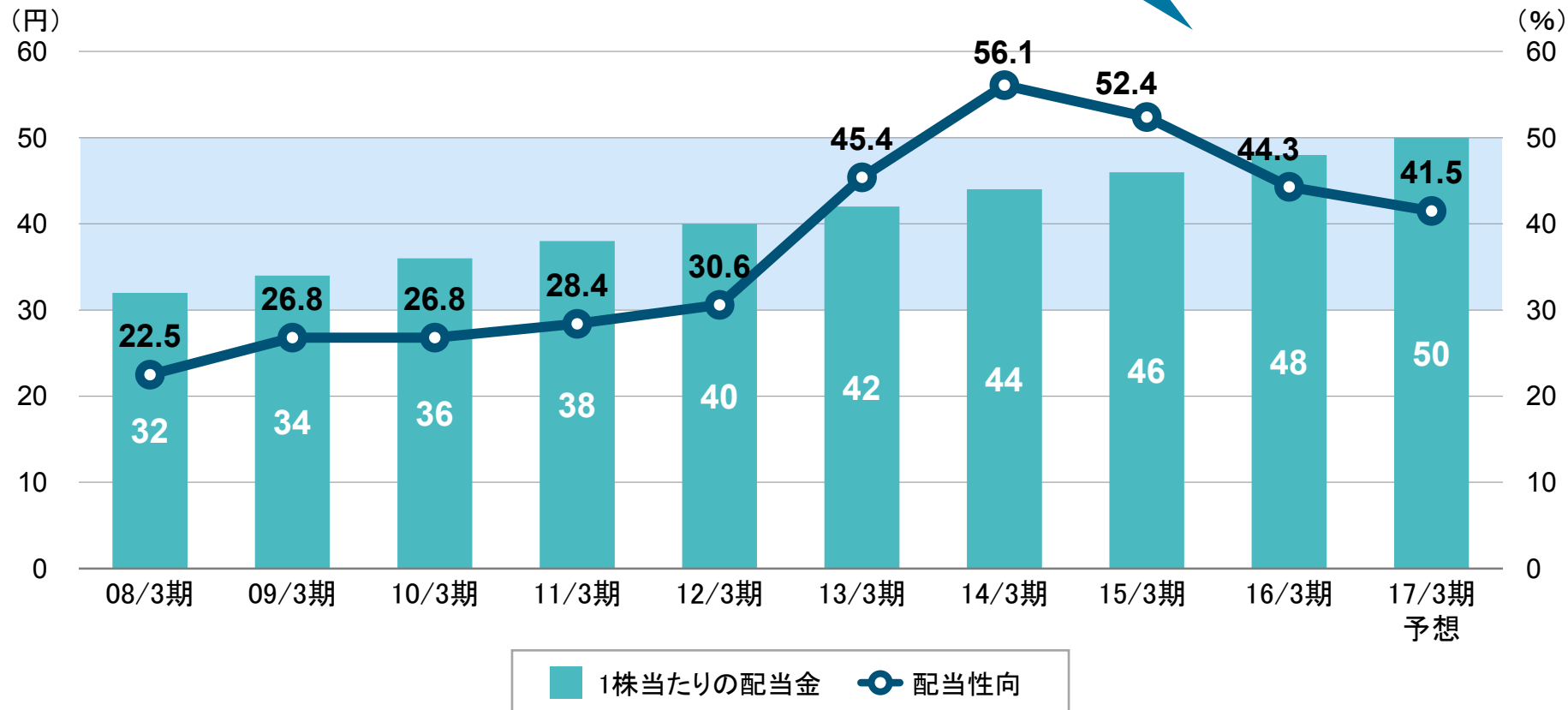


- 17/3期は商品力強化とKEAGとのシナジー拡大に注力。

11. 配当方針

配当に関する基本方針

安定配当の継続を基本方針とし、直近5年間通算での配当性向は30～50%を目安として増配の継続に努めます。



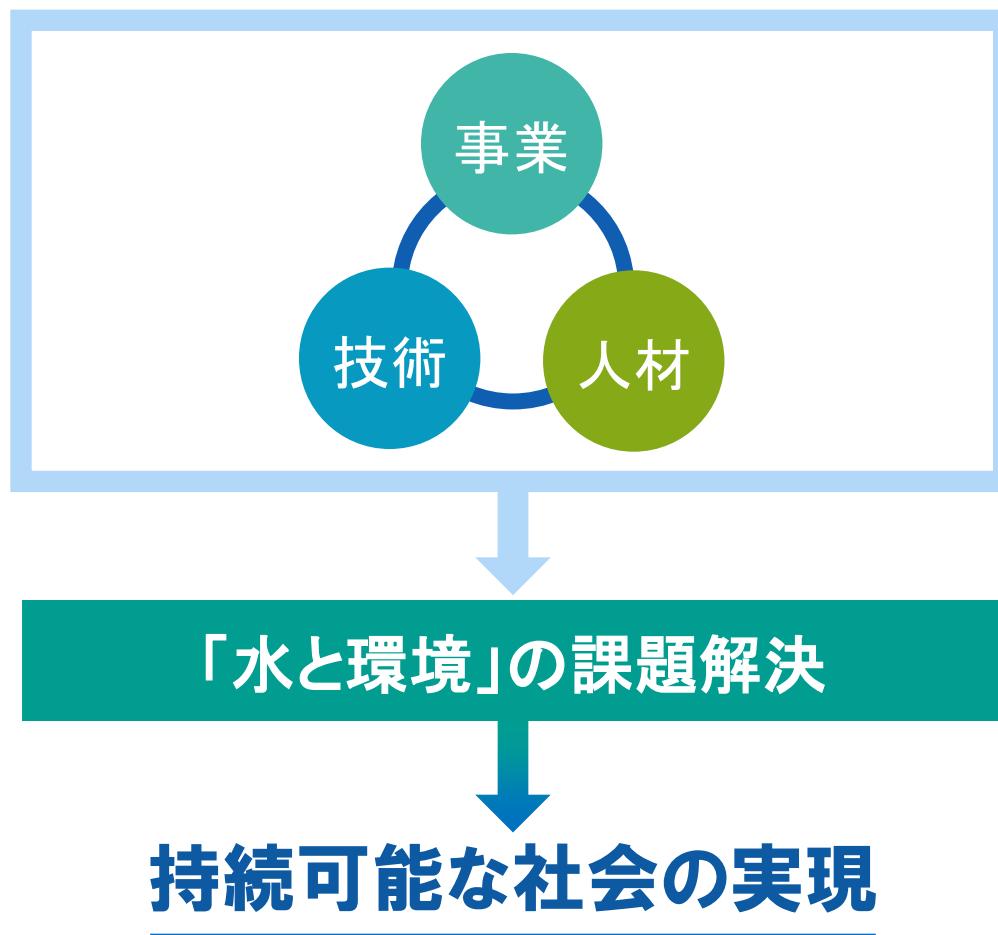
Ⅲ. 経営の方向性

1. 企業理念の実現
2. CK-17 (Competitive Kurita 2017) 計画の達成に向けて
3. 継続的なコーポレートガバナンス改革
4. 資本効率の向上

Ⅲ. 経営の方向性

1. 企業理念の実現

企業理念「“水”を究め、自然と人間が調和した豊かな環境を創造する」



Ⅲ. 経営の方向性

2. CK-17(Competitive Kurita 2017)計画の達成に向けて

① 1年目(2016年3月期)の実績

重点施策	1年目の実績
1 競争力のある商品・サービスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬品の機能向上(ドリームポリマー)推進 ● KCRセンター(Kurita Customer Relationship Center)の国内薬品市場への運用 ● KWSS(Kurita Water Supply Service)契約
2 新市場の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ● BKG社の水処理関連事業買収による欧州・中国新市場の取り込み ● 韓国における超純水供給事業の開始
3 生産体制の最適化とグループネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ● KEAGと日本、海外グループ会社とのクロスセル開始

Ⅲ. 経営の方向性

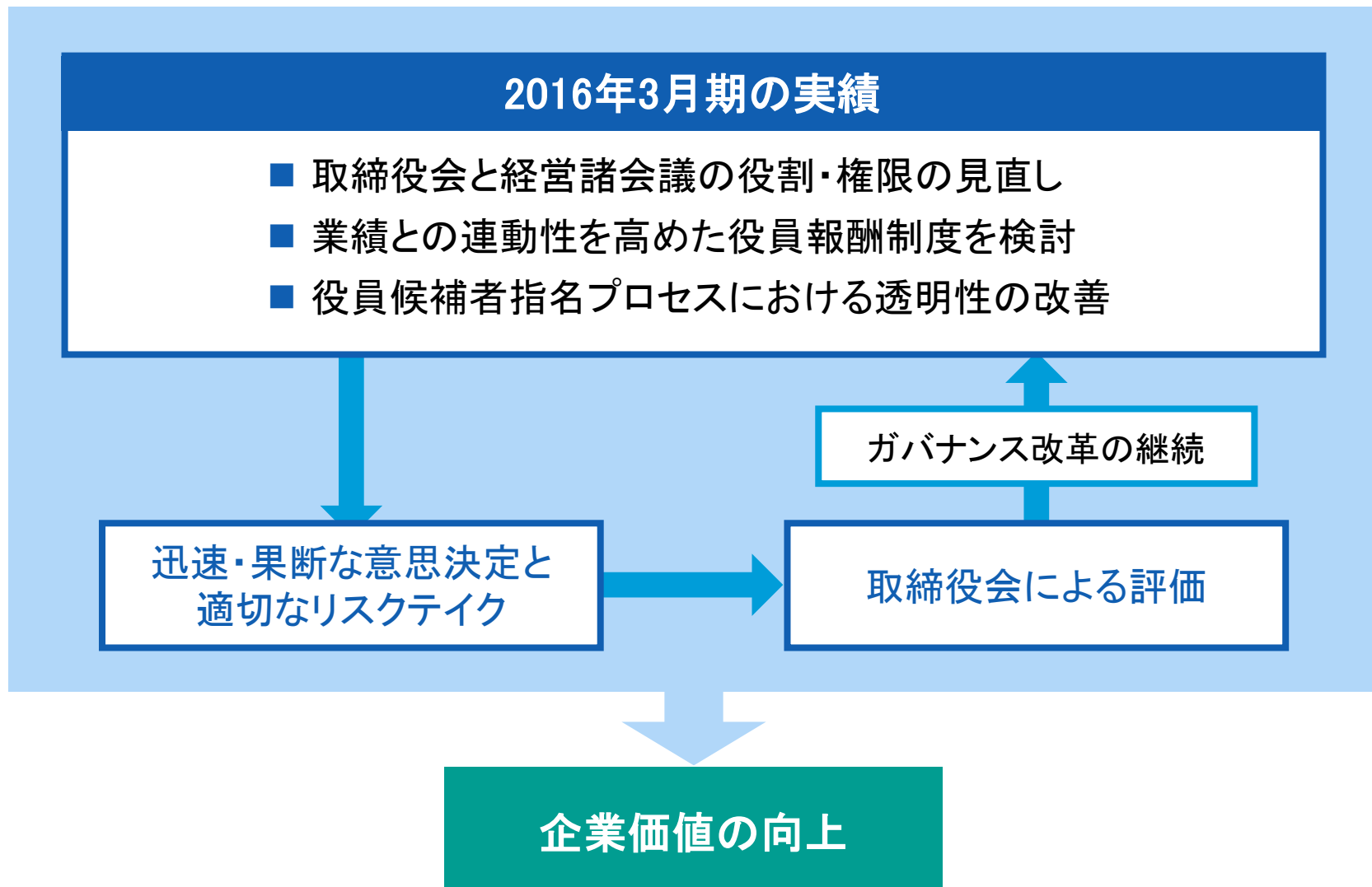
2. CK-17(Competitive Kurita 2017)計画の達成に向けて

② 2年目以降(2017年3月期～)の取り組み

重点施策	2年目以降の取り組み
1 競争力のある商品・サービスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬品の機能向上(新KEGの研究開発力の活用)推進 ● 薬品・装置とセンシング技術やITを融合し顧客の生産性向上や環境負荷低減に貢献する新サービスの創出
2 新市場の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ● 北米における薬品事業の拡大 ● 超純水供給事業の新市場への拡大
3 生産体制の最適化とグループネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外薬品事業の再編と新KEGとのシナジーの拡大 ● 日本・東アジア・東南アジアにおけるグループ生産体制の最適化

Ⅲ. 経営の方向性

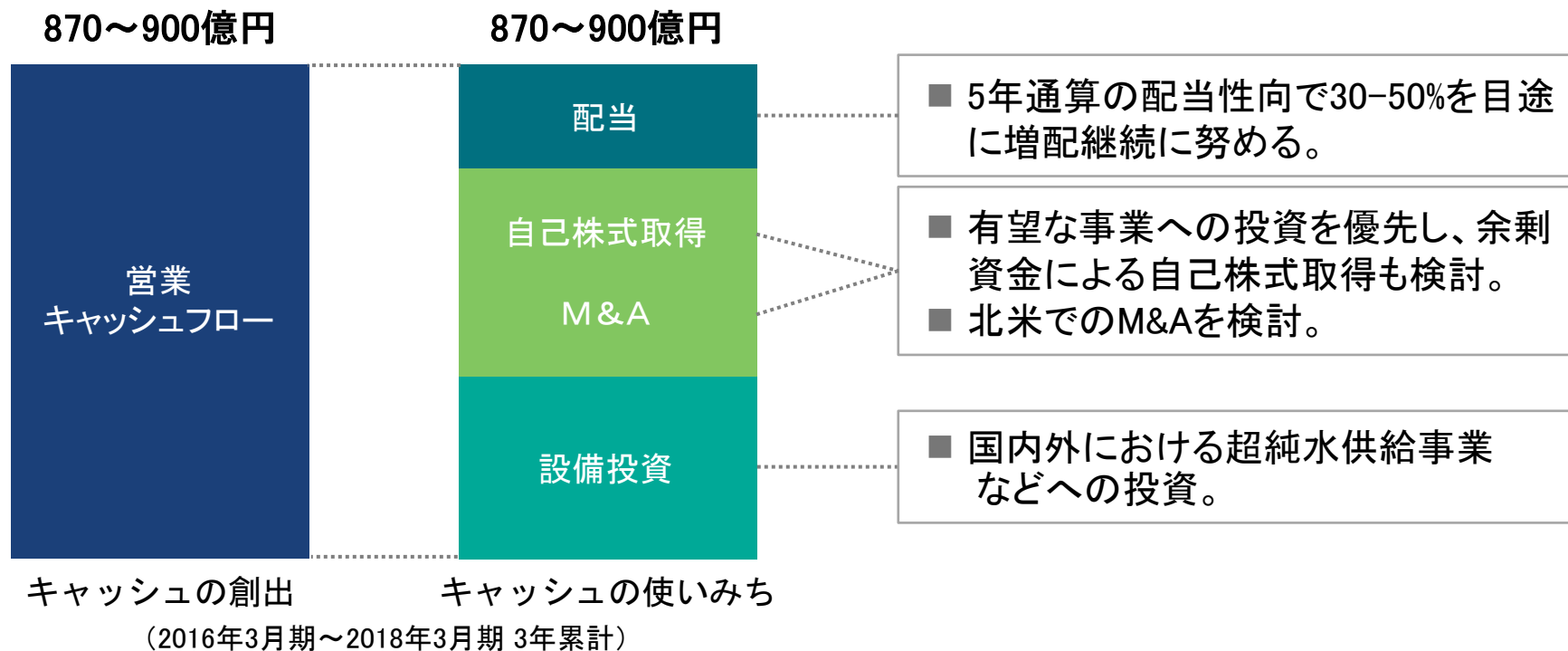
3. 継続的なコーポレートガバナンス改革



Ⅲ. 経営の方向性

4. 資本効率の向上

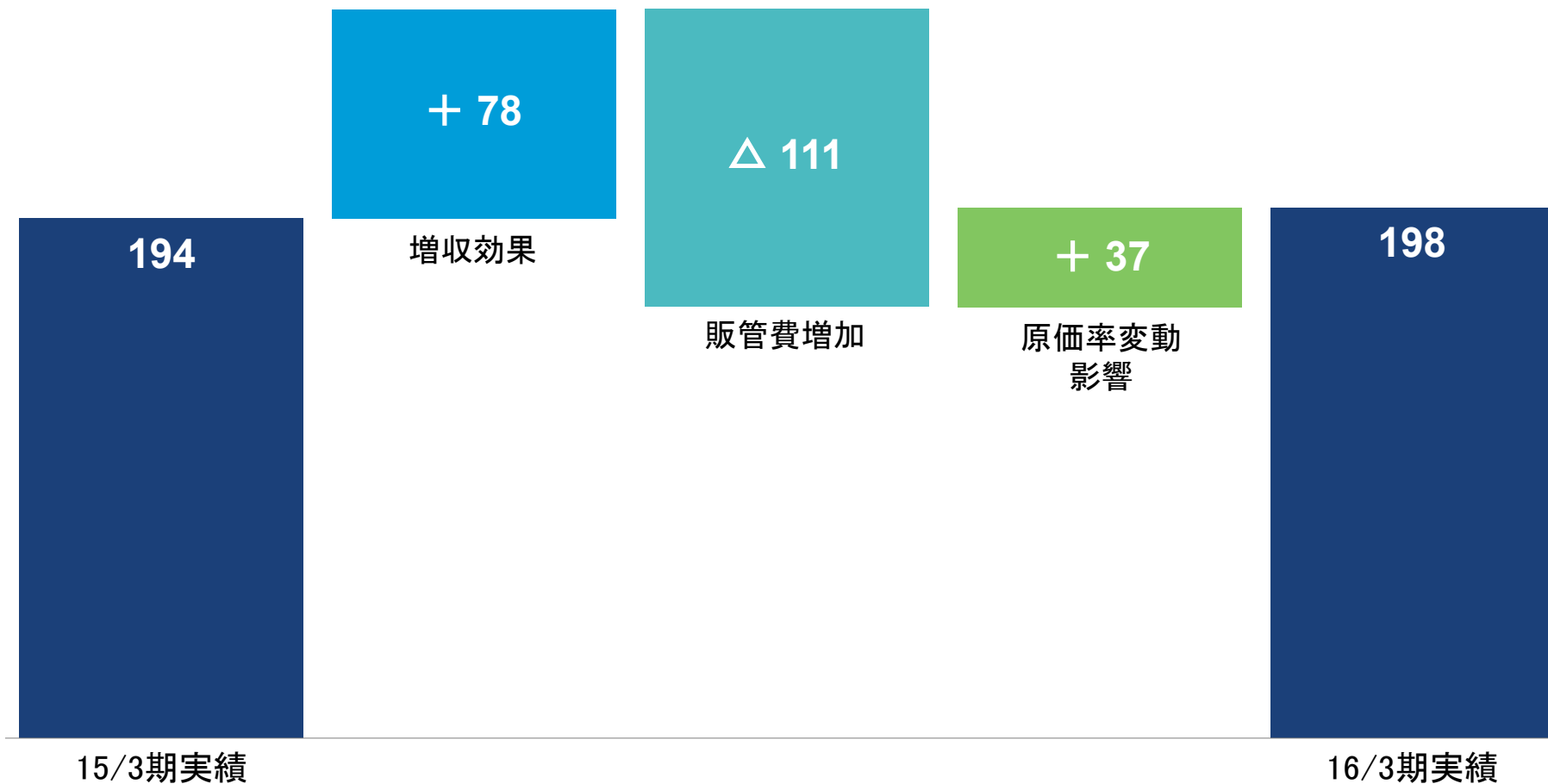
キャッシュの使いみち(方針)



- 運転資金と予備的資金を確保したうえで、余剰資金と自己資本の増加抑制に努める。
- 株主資本コストを上回るROEの維持とさらなる向上を目指す。

2016年3月期 営業利益増減分析

(単位:億円)



注* 原価率変動影響は、売上総利益率を用いて算出しています。



- U R L ■ <http://ir.kurita.co.jp/>
- M A I L ■ ir@kurita.co.jp

【 将来見通しに関する注記事項 】

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。